



高知空港拡張問題に伴い、現地事務所「高知県高知空港整備事務所」がこのほど完成し、五月四日、開所式が行われました。この事務所は、県道前浜一土佐山田線の交差点東側(田村)にあり、職員約三十名を配置し、用地収買補償や周辺整備などの諸問題に取り組み、うとするもの。いよいよ空港拡張業務が本格的となりまします。

# 地交渉積極的に 空港整備事務所が開所式

☎③1495, ④4864



総額二十一億円の空港周辺整備事業計画案が示されたことにより、高知空港の拡張問題は今年に入って積極的な動きを見せはじめています。  
ところで、この拡張問題に伴い県が、南国バイパスと県道前浜一土佐山田線の交差点東側に建設をすすめていた「高知県高知空港整備事務所」(窪田敬一所長)がこのほど完成し、五月四日開所式が行われました。  
この日は、県側から中内知事ら空港関係職員、市側からは小笠原市長、橋本市議会議長らが、また地元関係者多数が出席し、開所を祝いました。  
この事務所には、空港対策課や土地開発公社など約三十人の職員が籍を置くことになり、用地収買交渉や周辺整備事業などに積極的に取り組むこととなります。この事務所が空港拡張の現地である田村に開所したことにより、地権者



## 市政モニターを募集 申込は三十一日まで

昭和五十三年度の市政モニターを募集しています。  
市政モニターは、市民の行政に対する意見や要望を聞くことにより、これを正しくつかみ、今後の行政に反映させていくこととする目的で発足したものです。今年で四年目になります。みなさんも市政モニターに応募してみませんか。  
応募資格は満二十歳以上で、南国市に住んでいる人なら、誰れでも応募できます。ただし、国や地方公務員など、公職にある人はご遠慮ください。選考は市が行います。募集人員は二十人。任期は翌年の三月末日までです。仕事は、▽座談会への出席(二回)▽アンケートへの回答(三回)▽市内施設見学会(一回)▽その他、随時の意見や要望の提出などを予定。報酬は年間七千円。申込期間は五月三十一日(木)まで。申込方法は企画財政課広報広聴係にある申込書に必要事項を記入し、提出してください。郵送でも受け付けます。  
なお、市政モニターのみならず、からお聞きした意見は、その都度整理、集計、分析して市政モニター

# 用

## 欧州行政視察を終えて

市長 小笠原 喜郎

ストックホルムより  
ハンブルグを経てベルリンへ  
モスクワの小学校を視察したときのように私たちは、代表的な外人向けの誇るにたる施設を見せられていくかも知れない。いわゆる豪華である。これにひき比べて、このような雰囲気の中で見る一葉の写真では全く異質の世界ではあるが、百年生きてきた主人公の個性が小賢しい喜怒哀楽を超えた境地にいるかの如くはつきり描き出されている。  
私は知っている限り、山下須磨さんの日常生活を語って聞かせた。東洋人の「幸福」とは少し違った「安住」の世界に住む人に大変興味を持ってくれた。しかし、それほどまでもう若い人の、しかも異邦人ではうかがい知ることのできない世界に対する、根拠のない一種の讚美の表情であったかも知れない。

この施設にも大きな悩みがある。勤めをやる人があとを絶たないことである。元米、人口の少ない国であるから無理もないが、一番大きな理由は仕事に張り合いがないことだそうである。特に若い人に病める人が多い。医師、看護婦、病室が不足で、入院もままならぬ実情を報告した人もいるが、社会主義的な理想政策を続け、しかも資本主義社会のよさを取り入れていくことのいかに難しいかを教えられたような気がする。高福祉、高負担に堪えてきたこの国を優等生福祉国家に位置づけることは常識であろうが、そろそろ限界にきていることも確かのようにある。  
十月十三日、早朝にたき起され、弁当を渡される。朝食用である。今日はハンブルグを経由して西ベルリンに入り、今夜は東ベ

策課と土地開発公社が使用し、二階は異耕地事務所が使用することになります。  
これにより、買収予定面積八十三、三、地権者五百人、約三百戸にルリンで宿泊することになっている。西ベルリンの空港には昼前に時間どおり着いたが、東ベルリンに入るために予約してあった東ベルリンのバスが来ていない。全員足止めでゆっくり待つことになった。全く融通のきかない体制の異なった国へ入るので、慎重にならざるを得ない。そして、能率の上からいっても、この旅の最初に経験させられているので、しんぼうが第一であることは誰もが覚悟している。一時間ほどたつてやっと添乗員が運転手を見つけてきた。この運転手は、広いこの空港のある所に停車していたが、我々を探そうという意志は全然持ち合わせていないので、いつまでも運転台にじっとしていたのである。  
手荷物を積み込むのも、また大変である。我々、お客さんがバスの横腹へ運んで詰めなければならぬ。入りきらない。もう一度詰めて直したが、まだ入りきらない。とうとう座席へ一部入れて、やっとうと出発する。昼食もせず、荷物が納まることと東ベルリンへ向かって走り出す。

対して、用地収買補償や現地の測量、騒音対策、周辺整備などの諸問題に取り組む、いよいよ空港拡張業務を行うことになりました。

ベルリンの街ではもう菩提樹の葉が道路一面に落ちていて、ベルリンの壁、東ベルリンへ入る検問所に到着したときは、もう三時を過ぎていた。検問所の少し手前の街角で小休止、ここでモスクワのシエレメーチェフ空港以来久しぶりにカメラ使用禁止が伝達される。今度はなかなか威力が行われぬ。珍らしがつてはるか手前から盛んにパチパチ検問所を写している。壁を含めてこの周辺は、さくばくとした風景に興味をひかれるのであろう。  
いよいよ検問所へ向かって進む。レールをねじ曲げて作った鹿砦が立ち並んでいて、まっすぐに進入できないようになっていて、車はその間をS字型に縫うようにして入らなければならぬ。屋上にはカメラと機関銃が常時西ベルリンを眺んでいるのである。  
検問をうけることになった。私はこの時の状況を書くことすらおつくうである。この時はみなが空腹を訴えていたが、私もその時の空服と事務の繁雑さと鈍重さを感じ出すからである。もちろん全員